

小児事故予防の効果的な保健指導の方策
(分担研究：子どもの事故とその予防に関する研究)

野尻孝子1), 松下津也子1), 西岡倫代1), 福島靖正2)

要約：小児事故予防のための保健指導を乳幼児健康診査の場で実施することは有効であることが認められている。しかし、昨年度実施した保健指導の評価の調査においてわかったように、保護者の認識を得て行動変容をおこすことは現在の方策では、なお不十分なことから、健診の場を利用した保健指導マニュアルの見直しとともに、保護者を対象に小児事故事例集を作成し、事故への関心を高めてゆき事故予防につなげることを目的に本研究を実施した。

見出し語：事故予防 保健指導マニュアル 母子健康手帳 事故事例集

1. はじめに

乳幼児の事故予防対策は最近の保健医療状況や少子化社会の中で極めて重要であるが、多くの保護者に効果的な安全教育をいかに行うかが課題となっている。そこで、当所では乳幼児健診の場を利用して保護者に保健指導を行い一定の評価を得て来た。ところが、昨年本研究の中で重点的指導の有無と保護者の認識や予防行動の実施状況に差が認められなかったこと、また、乳幼児健診の実施主体がすべて市町村となったことから、乳幼児健診時に使用する保健指導マニュアルを再検討するとともに、保護者の事故予防意識の高揚を図るため事故事例集を作成することとした。

2. 保健指導マニュアルの再検討

非常に高い受診率を誇る乳幼児健診の場を利用して、統一した事故予防の保健指導を行うことは効率的かつ効果的な安全教育のひとつである。今回、再検討を行った結果、次の2項目の改訂が必要と考えられた。

1) 安全チェックリストの実施時期を従来の6か月から4か月に改める。

その理由として、市町村の健診時期に統一することと乳幼児期に多い誤飲が6か月以降増加することからそれ以前に保健指導を行う方法が

効果的と考えられるためである。

2) 安全チェックリストの実施対象に新たに3歳児用を追加する。

その理由として、乳幼児健診の全ての機会をとらえて安全教育をすることがより保護者の意識を高めることにつながると考えられるためである。保健指導マニュアルの構成は表1に示すとおりである。

表1 <保健指導マニュアル>

1. 事故防止の保健指導の意義
2. 死亡統計
3. 和歌山県御坊保健所で実施した調査
4. 事故防止の保健指導の実際
5. 安全チェックリストとその指導
6. 処置方法
7. 参考資料

事故防止のためのパンフレット

「子どものまわりには危険がいっぱい」

さらに、継続的に保護者の認識と行動変容を評価し、保護者に眼で見える形で提示出来るようにしていくことが効果的と考えられる。

そこで、安全チェックリスト(12項目)を母子健康手帳の大きさに合わせて縦14cm、横9cmの二部複写として、4か月児用、1歳6か月児用、3歳児用を添付して、指導者側も保護者の

1)和歌山県御坊保健所 2)和歌山県福祉保健部健康対策課

認識度や行動の変容を評価してゆけるようにした。3歳児用の安全チェックリストを表2に示した。

表2 安全チェックリスト（3歳児用）

市町村名	氏名	男・女
	生年月日 平成 年 月 日	(歳 か月)

あてはまるものを○で囲って、3歳児健診の時に持ってきて下さい。

1. これまでに医師にかかるほどの事故にあったことがありますか？

いいえ はい (回)

<1回目>事故の種類(外傷・誤飲・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)

(歳 か月の時) 原因(離乳食) 入院()日 通院()日

<2回目>事故の種類(外傷・誤飲・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)

(歳 か月の時) 原因(離乳食) 入院()日 通院()日

<3回目>事故の種類(外傷・誤飲・窒息・やけど・溺水・交通事故・その他)

(歳 か月の時) 原因(離乳食) 入院()日 通院()日

2. 子どもだけにして家を留守にすることがありますか？

いいえ

時々 ・ はい

3. 階段や段差のある所には、子どもが落ちないような対策がしてありますか？

はい

一部 ・ いいえ

4. ビーズ、おはじき、硬貨、ボタンなどの小さなもので遊ばせますか？

いいえ

時々 ・ はい

5. ピーナッツ、あめ、あられ等を食べさせることがありますか？

いいえ

時々 ・ はい

6. 薬・たばこ・マッチ・ライター・化粧品・洗剤・刃物などを子どもの手の届かない所に置いてありますか？

はい

時々 ・ いいえ

7. 熱いお茶・ポット・鍋・アイロン等を子どもの手の届かない所に置いてありますか？

はい

時々 ・ いいえ

8. 暖房としてストーブやファンヒーターを使う際、安全柵がありますか？

はい 使用せず

時々 ・ いいえ

9. 浴槽や洗濯機に水をためておきますか？

いいえ

時々 ・ はい

10. 日頃から交通安全教育をしていますか？

はい

時々 ・ いいえ

11. 自動車の中に子どもを一人にしておくことがありますか？

いいえ 乗車せず

時々 ・ はい

12. 自動車に乗せる時は、小児用シートベルト付き座席を使っていますか？

はい 乗車せず

時々 ・ いいえ

—133—

3. 小児事故事例集の作成

保護者に事故予防の必要性をより具体的に認識してもらう方策として身近な物事による思わぬ事故例を医師や保護者から集めて事例集の作成に取り組むことにした。

1) 方法

ア. 医師からの情報収集

県内医師50名（小児科20名、整形外科10名、外科5名、脳外科5名、耳鼻科5名、眼科3名、口腔外科2名）に対し、郵送法にてアンケート調査を実施した。1医師5例までとした。

対象事例：6歳（就学前）までの乳幼児事故事例の種類や物質等は異なったもので、医師の印象深かった症例で、重軽傷は問わず広く一般に知ってほしい、又は思わぬ事故事例とした。

イ. 保護者からの情報収集

管内の乳幼児健診時の問診で事故の既往があった保護者に対して面接法にてアンケート調査を実施した。

2) 調査内容

アンケート調査の内容について、医師用を表3に、保護者用を表4に示した。

表3 小児事故事例（例提出中 例）

医療機関名	小児科・外科・整形外科・脳外科・耳鼻科・眼科・その他（ ）		
所在地			
医師名			
事故の種類	1.誤飲 2.窒息 3.外傷 4.火傷 5.溺水 6.交通事故 7.転倒 8.転落 9.衝突 10.はさむ 11.その他（ ）		
原因	例).階段、タタコ等		
事故発生時患児の年齢	()歳()か月	性別	男・女
兄弟	()人中()番目	出生順位	長男・長女・次男・次女・3男・3女・その他()
環境	1.独立家屋()階建 2.アパート()階 3.マンション()階 4.その他()		
家族形態	1.核家族 2.2世代同居 3.3世代同居 4.複合家族 5.その他()		
事故	場所	家庭内：1.階段 2.浴槽・風呂場 3.台所 4.玄関 5.居間 6.子供部屋 7.ベランダ 8.その他() 家庭外：1.店舗等 2.幼稚園・保育所 3.公園 4.道路 5.公共施設 6.海・山・川等自然環境 7.その他()	
	発生	誰が発見した 1.母 2.父 3.祖父 4.祖母 5.保母 6.その他() 周囲に居た人 1.母 2.父 3.祖父 4.祖母 5.保母 6.その他()	
状況	子供は何をしていたか	1.遊んでいた 2.食べていた 3.テレビ・ビデオを見ていた 4.寝ていた 5.わからない 6.その他()	
	周囲は何をしていたか	1.家事 2.工作中 3.休憩(テレビ、読書等) 4.雑談 5.睡眠 6.その他()	
状況	どんなことがどのようにして起こったか	1.何時(平日・休日・不明) 2.時間(午前 時頃・午後 時頃・不明) 3.具体的に { }	
	事故発生時 とった対応	(ア)家族等身近なものの対応 (イ)医療機関の対応：処置() 手術(有・無())	
受診時の 患児の状態	意識(有・無)、座薬(有・無)、嘔吐(有・無)、出血(有・無) 具体的に ()		
受診状況	1.初診のみ 2.通院 3.入院()日 4.施設紹介 5.治療不要 6.その他()		
転帰	1.治療中 2.完治 3.死亡 4.後遺症()		

※ 記入できる範囲で結構ですので、よろしくお願いいたします。

表4 小児事故アンケート（保護者用）

受診診療科	1. 病院 2. 医院 (小児科・外科・整形外科・脳外科・耳鼻科・眼科・その他())			
受診形態	1. 救急車 2. 自家用車 3. タクシー 4. 電車・バス等 5. その他()			
事故の種類	1. 誤飲 2. 窒息 3. 外傷 4. 火傷 5. 溺水 6. 交通事故 7. 転倒 8. 転落 9. 衝突 10. はさむ 11. その他()			
原因	例). 階段、タハコ等			
事故発生時患児の年齢	() 歳 () か月	性 別	男 ・ 女	
兄 弟	() 人中 () 番目	出生順位	長男・長女・次男・次女・3男・3女・その他()	
環 境	1. 独立家屋 2. アパート() 階 3. マンション() 階 4. その他()			
家族形態	1. 核家族 2. 2世代同居 3. 3世代同居 4. 複合家族 5. その他()			
事故発生状況	場 所	家庭内：1. 階段 2. 浴槽・風呂場 3. 台所 4. 玄関 5. 居間 6. 子供部屋 7. ベランダ 8. その他() 家庭外：1. 店舗等 2. 幼稚園・保育所 3. 公園 4. 道路 5. 公共施設 6. 海・山・川等自然環境 7. その他()		
	誰が発見した	1. 母 2. 父 3. 祖父 4. 祖母 5. 保母 6. その他()		
	周囲に居た人	1. 母 2. 父 3. 祖父 4. 祖母 5. 保母 6. その他()		
	子供は何をしていたか	1. 遊んでいた 2. 食べていた 3. テレビ・ビデオを見ていた 4. 寝ていた 5. わからない 6. その他()		
	周囲は何をしていたか	1. 家事 2. 仕事中 3. 休憩（テレビ、読書等） 4. 雑談 5. 睡眠 6. その他()		
状況	どんなことがどのようにして起こったか 1. 何時（平日・休日・不明） 2. 時間（午前 時頃・午後 時頃・不明） 3. 具体的に {			
事故発生時 とった対応	(ア) 家族等身近なもの対応			
	(イ) 医療機関の対応：処置() 手術(有・無())			
受診時の 患児の 状態	意識(有・無)、 座学(有・無)、 嘔吐(有・無)、出血(有・無) 具体的に ()			
受診状況	1. 初診のみ 2. 通院 3. 入院 () 日 4. 他院紹介 5. 治療不要 6. その他()			
転 帰	1. 治療中 2. 完治 3. 死亡 4. 後遺症()			
その後気をつけるようになったこと				

3) 結果

医師用については50名中24名、回収率48%で60症例の事故事例を得た。

4. まとめ

健診の場を利用して指導者側の統一した事故予防のための効果的な保健指導を実施するため保健指導マニュアルの再検討を行った。また、保護者の行動変容を評価してゆくことが指導者側にも必要であり、保護者自身にも認識してもらうためにも眼に見える形で、保存できるよう

に提示してゆくことが必要である。そこで、安全チェックリストを母子手帳に添付し、評価手段として利用できるようにした。

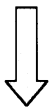
また、実際にあった事故事例を医師、保護者から情報収集し、事例集を作成してゆくことは保護者により具体的に事故予防の大切さを認識してもらう方策となると考える。

今後、保護者にわかりやすく、印象を与えられる事故事例集を再編集してゆく必要がある。

今回の本研究が事故予防の効果的な安全教育

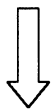
の一つの方策として利用されることを期待している。

謝辞：アンケート調査に御協力戴きました医療関係者に対しまして心より感謝いたします。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：小児事故予防のための保健指導を乳幼児健康診査の場で実施することは有効であることが認められている。しかし、昨年度実施した保健指導の評価の調査においてわかったように、保護者の認識を得て行動変容をおこすことは現在の方策では、なお不十分なことから、健診の場を利用した保健指導マニュアルの見直しとともに、保護者を対象に小児事故事例集を作成し、事故への関心を高めてゆき事故予防につなげることを目的に本研究を実施した。